

熊本地震に伴う教職員の長期派遣 ～被災地支援に取り組む鹿児島県の教職員～

教職員課

教職員の派遣について

県教育委員会では、平成28年熊本地震により被災した学校の子供たちのために、熊本県教育委員会からの教職員派遣要請に応じて、本県から希望者を募り教職員を派遣しているところです。派遣者は、それぞれ被災した学校に配置され、チームティーチングや少人数による学習指導や心のケア、健康相談等の支援に当たっています。

平成28年度は9人を、平成29年度は、現在2人を派遣しています。

派遣教職員の紹介

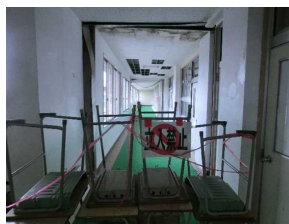
代表してお二人の先生に感想等を寄せてもらいました。

年度	職名	氏名	派遣校	原籍校(※派遣時)
H28	教諭	田浦 充	益城町立広安西小	鹿児島市立中山小
	教諭	高山 寿	熊本市立花陵中	湧水町立吉松中
	教諭	萬 拓	熊本市立長嶺小	鹿屋市立寿小
	教諭	鳥越 亮次	熊本市立豊田小	肝付町立波野小
	養教	沼田 知子	宇城市立小川中	鹿屋市立寿北小
	養教	佐々木友里恵	菊陽町立菊陽中部小	鹿屋市立花岡小
	養教	坂本 智子	益城町立益城中	鹿屋市立細山田中
	養教	山下 彩希	御船町立御船中	志布志市立伊崎田中
	養教	福永 さおり	熊本市立東部中	川内商工高校
H29	教諭	萬 拓	益城町立広安西小	鹿屋市立寿小
	教諭	濱口 智子	益城町立津森小	鹿児島市立中山小

H28派遣者 鹿屋市立細山田中学校

養護教諭 坂本 智子

平成28年4月に発生した熊本地震の支援のために派遣教員として9か月間、益城中学校へ赴任しました。赴任して一番驚いたのは、渡り廊下と校舎の間にヒビが入り、校舎内に雨が降っていたことです。水道施設も被害を受けトイレが使えず、敷地内に仮設トイレが40基設置してありました。



【被害を受けた校舎】

保健室は震災等の影響で教室に行けない生徒が数人おり、話をしたり、一緒に学習をしたりしました。昼休みは校庭に出て、生徒に声をかけたり一緒に遊んだりして生徒との距離を縮めていきました。少しずつ慣れてくると、生徒にも先生方にも頼られるようになり、責任を感じると同時にい

づれ来る別れに淋しくなることもありました。

部活動、高校受験、少し早い卒業式。中学校勤務が初めての私にとっても、有意義な9か月間でした。益城中学校の生徒たちが、復興と共に成長、活躍されることを願っています。



【校庭に設置：仮設トイレ】

H28～H29派遣者(鹿屋市立寿小学校)

教諭 萬 拓

昨年の7月から熊本地震の支援のため、長期派遣として、熊本県内の小学校に赴任しました。熊本に着いたときに、ひび割れた窓ガラスやブロック塀、瓦礫に押しつぶされた車など想像を絶する光景を見て愕然としました。

しかし、学校の子供たちや先生方はとても明るく、毎日を懸命に生きていました。「なんてたくましいんだろう。」と驚き、感動しました。教室では大きな声で発表し、運動場では汗にまみれながら元気に遊んでいる熊本の子供たち。その姿は、数日前に涙を流しながらも温かく送り出してくれた、前任校の鹿屋の子供たちとまったく同じ明るい笑顔でした。地震によって心や体を傷つけられているのに、顔を上げて、上を向いて生きている、そんな熊本の子供たちに逆に元気をもらいながら頑張っています。鹿屋の子供たちや保護者からは、がき等で励まされる度に、「がんばらないといけない」と奮起する反面、「みんな元気になっているかな」と寂しさを感じることもありました。

今は4年生の算数の少人数指導をしています。子供たちは難しい問題にも、最後まであきらめずに取り組んでいます。今後も熊本の子供たちの笑顔のため、また鹿屋の子供たちの期待に応えるため、全力で熊本で頑張っていきたいと思います。



【地域の方々が学習支援】